

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	岐阜工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科				16	16	7	
	電気情報工学科				7	7	7	
	電子制御工学科				7	7	7	
	環境都市工学科				7	7	7	
	建築学科				7	7	7	
専攻科	先端融合開発専攻				19	19	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=21&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	岐阜工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	国立高等専門学校 理事（2024年4月1日～2026年3月31日）	2026年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	文部科学省官房参事官（命）文部科学戦略官	2026年4月1日～2026年10月15日	総務
非常勤	東京大学教授	2026年4月1日～2028年3月31日	ダイバーシティ
常勤	東北大学工学研究科長	2026年4月1日～2028年3月31日	研究・産学連携 茨城工業高等専門学校校長兼務
（備考） 理事長は2024年3月31日まで九州大学大学院総合理工学府長・研究院長			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岐阜工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 教務会議が中心となり、年度末に次年度のシラバス作成方針、及び作成方法を示している。教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成される。学期初めには、教務主事の指示の下、各授業担当教員から、学生にシラバスを配付して説明がなされ、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備・活用されるルーチンとなっている。このシラバスは、各学科及び専攻の学習・教育目標、教育課程表、及び教育課程系統図などに基づいて体系的に編成されおり、外部へweb公開されている。	
授業計画書の公表方法	http://www.gifu-nct.ac.jp/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 教育の目的に照らして、講義、演習、実験実習等の授業形態のバランスを適切に配置し、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法を工夫している。専門5学科の教育課程表における授業形態別の単位数について、必修科目における講義の割合は学科によりバラツキがあるものの、60%～65%の範囲である(専攻科では58%)。すなわち、体験形態の授業科目の割合は、35%～40%(専攻科では42%)と比較的高い割合であり、実践的技術者の養成を目標のひとつとして掲げている本校のスタンスに適合している。 また、シラバスには、成績評価方法を明記し、定期試験、課題、レポートなどの学習内容から総得点率(%)によって成績評価を行うことを示している。さらには、到達目標を複数設定し、その到達レベルの目安として、理想的なレベル(80%)、標準的なレベル(60%)、未到達レベル評価を評価項目ごとにルーブリックを作成している。以上のように、教育課程の内容は、適切な方法により学修成果を評価して、本科4年生及び5年生においては教務会議、専攻科生については専攻科会議にて検討後、主管会議及び運営会議を経て履修単位を認定している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 【本科(学科)】 「試験、成績評価、進級及び卒業に関する内規」には、成績評価、進級、及び卒業に関する基準が定められている。本内規は学生便覧に記載され入学時に全学生に配布される。年度当初に第1学年の学生を対象に実施される「新入生校内研修」において教務主事からパワーポイントを用いて説明され、中学校から入学してきた新入生に対して、成績評価、進級等に関わる内容が丁寧に説明されている。 試験、成績評価、進級及び卒業に関する内規 URL : https://www.gifu-nct.ac.jp/about/disclosure/shiken_r6.pdf 【専攻科】 「専攻科学生の試験、成績評価及び修了認定に関する内規」には、成績評価及び修了に関する基準が定められている。本内規は学生便覧に記載され入学時に全学生に配布される。年度当初に1学次の学生を対象に実施される「オリエンテーション」において専攻科長から資料を用いて説明され、新入生に対して成績評価、専攻科修了等に関わる内容が丁寧に説明されている。 専攻科学生の試験、成績評価及び修了認定に関する内規 URL : https://www.gifu-nct.ac.jp/about/disclosure/senkoka_shiken_h30.pdf 【本科・専攻科共通 客観的な指標の算出方法】 また、本校の成績評価基準に基づき、本校における10段階の成績評価を用い、履修科目の合計点の平均を算出する。(10点満点で点数化)	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.gifu-nct.ac.jp/syllabus/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 【本科(学科)】 「試験、成績評価、進級及び卒業に関する内規」には、進級、及び卒業に関する要件が定められている。所定の課程を履修し、167単位以上(一般科目81単位以上、専門科目86単位以上)修得し、特別活動に合格した者は卒業を認定する。また、第5学年において履修すべき単位を修得していない者は卒業を認定しない。その場合は、卒業研究の単位も認定しないものとし、次年度に卒業研究を再履修の上、修得しなければならない。卒業認定に係わる未修得授業科目の成績向上は、課題指導及び単位追加認定試験を行い、6単位以内(卒業研究を除く)で認定している。 年度末には、学生の卒業判定を審議事項とした主管会議、及び運営会議が開催される。 【専攻科】 「専攻科学生の試験、成績評価及び修了認定に関する内規」には、修了に関する要件が定められている。所定の課程を履修し、62単位以上(一般科目8単位以上、専門科目54単位以上)修得した者は修了を認定する。また、2年次において履修すべき単位を修得していない者は修了を認定しない。その場合は、特別研究2の単位も認定しないものとし、次年度に特別研究2を再履修の上、修得しなければならない。 年度末には、学生の卒業判定を審議事項とした主管会議、及び運営会議が開催される。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	岐阜工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和8年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.gifu-nct.ac.jp/about/disclosure/

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：<https://www.gifu-nct.ac.jp/about/disclosure/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gifu-nct.ac.jp/about/philosophy/ ）
（概要） 岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、準学士課程については、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的としている。専攻科課程については高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的としている。 機械工学科の教育目的は、国際社会において機械技術者として活躍するための基礎学力を有し、社会情勢の急激な変化に柔軟に対処できる情報処理能力と情報解析能力を備えた技術者を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/ ）
（概要） 本校では、下記の人材の養成を目的としている。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技術の素養を身につけて、各学科の規定する単位数を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して卒業を認定し「準学士（工学）」の称号を授与する。また、専攻科が規定する単位を修得したものに修了を認定する。 《養成すべき人材像》 「科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者」 《卒業生、修了生が修得すべき能力・技術の素養》 （A）主体的学習能力 ① 技術者として必要となる自己管理能力、責任感、チームワーク力、体力等を持つことができる ② 未来指向型のキャリアデザイン力を身につけることができる （B）創造的思考力 ① 新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案することができる ② 基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行することができる （C）国際的対応力 ① 人文・社会科学の知識を活用し、グローバルな視点で社会問題や環境問題を捉えることができる ② 日本語および一つ以上の外国語を用いたコミュニケーション能力を身につけることができる （D）専門的能力 ① 数学や自然科学を基礎とした専門分野の基礎知識・能力を身につけることができる ② 実験・実習で得られるデータの測定、処理および考察に関する実践的技術を身につけることができる （E）情報通信技術 ① 情報リテラシーを身につけることができる ② 情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされる情報を収集・活用・発信することができる 機械工学科は、機械技術者として活躍するための機械工学の（D）基礎学力を有するの

みならず、(A) 主体性・多様性・協働性等の人間力、思考力・判断力・表現力等の(B) 創造的な思考力、外国語等のグローバルな(C) コミュニケーション能力、及び社会情勢の急激な変化に柔軟に対処できる(E) 情報通信技術能力を備えた人材を育成する。

- (1) 機械工学の基礎となる4力学(材料力学、熱力学、流体力学、機械力学)に関する基礎知識の習得と理解
- (2) 機械設計技術の基盤である数学、物理学、情報処理の基礎を理解し、その理論や概念を説明できる能力
- (3) 機械や製品を製作するための生産・設計・加工・計測・制御に関する原理を理解する能力
- (4) 実験や実習、卒業研究を通して、課題を理解し計画的に実行する能力
- (5) 課題に対する内容を文章や発表によって論理的に表現することができる能力
- (6) 国際社会において必要なコミュニケーションの基礎能力
- (7) 機械技術が地球環境や社会に及ぼす影響を理解し、倫理観と責任感持って業務にかかわる姿勢

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/>)

(概要)

本校では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下に示す科目群を用意している。

《全学科・専攻科共通》

(A) 主体的学習能力

主体的な学習態度を養うため、低学年において各専門学科の動機付け科目、入門的な科目を用意している。また自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップなどの素養を身につけることを目的とした各種実験・実習・演習系科目を各学年に用意している。さらに、生涯にわたり継続的に活動できる心身ともに健康な技術者を目指して保健体育、キャリア教育支援プログラムに関わる科目群や学生の主体的参加型の活動を用意している。

(A-1) 主体性の涵養

(A-2) 保健体育及び芸術

(A-3) キャリアデザイン能力

(B) 創造的思考力

各学科、専攻科において創造的な工学実験、実習、演習および卒業研究、特別研究により、課題を発見する思考力や計画から実行までを含めた課題解決能力を養うための科目群を用意している。また専攻科では、異分野対応力を養うことを目的とした横断型の実習科目を用意している。

(B-1) 創成型活動

(B-2) エンジニアリングデザイン能力

(C) 国際的対応力

グローバルな技術者として必要となる一般的な教養科目群(人文・社会科学)を低学年から用意している。また、国際的に通用するコミュニケーションツールとしての英語をすべての学年で用意し、高学年では第二外国語を用意している。

(C-1) 一般教養

(C-2) コミュニケーション能力

(D) 専門的能力

<準学士課程>

すべての専門分野で必要となる数学、自然科学、工学基礎に関する科目群を主には低学年で用意し、学年が進行するに従って専門工学、工学実験・実習、技術者倫理などの科目群をくさび型に配置することで、専門的能力や実践的技術を効率的に習得する科目群を用意している。

(D-1) 理学

(D-2) 基礎工学

(D-3) 専門分野

(D-4) 技術者倫理

<専攻科課程>

準学士課程で身につけた各専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）の専門的能力をさらに深める科目群を用意している。また、異なる分野を融合した問題解決手段により、新しいものづくりを開発するために必要な能力を身につける科目群を用意している。

(D-1) 理学

(D-2) 先端融合開発学域

(D-3) 専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）

(D-4) 技術者倫理環境都市工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群：第1学年に導入教育科目を設け、第2学年以上の各学年に、自身のキャリアプランニングを育成させる実習・演習系科目を用意している。

機械工学科は、ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下の科目群を用意している。

機械工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群：第1学年にもものづくりに関わる導入教育科目を設け、第2学年以上の各学年に、機械設計製図系科目、機械加工系科目、及び機械工学実験系科目の実習・演習系の科目を用意している。

機械工学科の創造的思考力を身につけるための科目群：課題解決能力を涵養するために、第4学年に実習系科目、第5学年に卒業研究を用意している。

機械工学科の国際的対応力を身につけるための科目群：外国語科目のほか、専門分野の英語を扱う科目を準備している。

機械工学科の専門的能力に関する科目群：機械工学の4力学（材料力学・熱力学・流体力学・機械力学）に関わる基礎科目のほか、境界領域に関わる講義系科目と実験系科目、演習系科目を用意している。

機械工学科の情報通信技術を身につけるための科目群：低学年では情報リテラシーの基礎科目を設け、学年進行に従い情報処理、あるいは数値計算法等の高度な科目群を準備している。

《成績評価及び単位認定基準》

これらの科目における単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行う。

・成績評価は、主には定期試験、提出物及び平素の学習状況等を総合して実施し、評価基準は総得点率の60%以上を合格とする。

・履修した授業科目の単位修得は、以下の成績評価6以上で認定する。

総得点率 (%)	10段階表示	標点区分
80 以上	10～8	優
70～80 未満	7	良
60～70 未満	6	可
60 未満	5～2	不可

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/>)

(概要) 本校は、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるという使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成することを目的としている。このような教育理念のもと、本校における受入方針は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものである。具体的には、次のような人を求めている。 《本科入学者に求める人材像》 1. 基礎学力が身についている人 2. コミュニケーション能力の基礎が身につけており、グローバルな視点で活躍したい人 3. 主体的に勉学や課外活動に取り組んでいる人 4. 科学的探求心が旺盛で、ものづくりを通して人や地域社会の発展に貢献したい人 《4 年次編入学者に求める人材像》 1. 基礎学力の修得に努めており、さらに専門の知識を身につけたい人 2. 好奇心が旺盛で、常に知識を獲得し、能力の開発を目指して努力する人 3. 学んだ知識を活用し社会に貢献したい人

学部等名 電気情報工学科
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.gifu-nct.ac.jp/about/philosophy/)
(概要) 岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、準学士課程については、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的としている。専攻科課程については高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的としている。 電気情報工学科の教育目的は、電気・電子・情報の各分野における基礎知識と技術をバランス良く身につけると共に、社会の要求に応え高度な専門技術と知識を修得していける能力を身につけた技術者を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/)
(概要) 本校では、下記の人材の養成を目的としている。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技術の素養を身につけて、各学科の規定する単位数を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して卒業を認定し「準学士（工学）」の称号を授与する。また、専攻科が規定する単位を修得したものに修了を認定する。 《養成すべき人材像》 「科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者」 《卒業生、修了生が修得すべき能力・技術の素養》 (A) 主体的学習能力 ① 技術者として必要となる自己管理能力、責任感、チームワーク力、体力等を持つことができる ② 未来指向型のキャリアデザイン力を身につけることができる (B) 創造的思考力 ① 新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案することができる ② 基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行することができる (C) 国際的対応力 ① 人文・社会科学の知識を活用し、グローバルな視点で社会問題や環境問題を捉えることができる

② 日本語および一つ以上の外国語を用いたコミュニケーション能力を身につけることができる (D) 専門的能力 ① 数学や自然科学を基礎とした専門分野の基礎知識・能力を身につけることができる ② 実験・実習で得られるデータの測定、処理および考察に関する実践的技術を身につけることができる (E) 情報通信技術 ① 情報リテラシーを身につけることができる ② 情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされる情報を収集・活用・発信することができる 電気情報工学科は、理工系基礎学力と電気工学・電子工学・情報工学系の学力・技術をバランス良く身に付ける。このような高度な (D) (E) 専門技術と知識の修得と共に、(C) 人文・社会系の素養も身に付け、(A) 自ら学び、考え、課題を解決できる、(B) 創造性・探究心豊かで、社会の要求に応えることを目指す科学技術人材を育成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.gifu-net.ac.jp/about/3policy/)
(概要) 本校では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下に示す科目群を用意している。 《全学科・専攻科共通》 (A) 主体的学習能力 主体的な学習態度を養うため、低学年において各専門学科の動機付け科目、入門的な科目を用意している。また自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップなどの素養を身につけることを目的とした各種実験・実習・演習系科目を各学年に用意している。さらに、生涯にわたり継続的に活動できる心身ともに健康な技術者を目指して保健体育、キャリア教育支援プログラムに関わる科目群や学生の主体的参加型の活動を用意している。 (A-1) 主体性の涵養 (A-2) 保健体育及び芸術 (A-3) キャリアデザイン能力 (B) 創造的思考力 各学科、専攻科において創造的な工学実験、実習、演習および卒業研究、特別研究により、課題を発見する思考力や計画から実行までを含めた課題解決能力を養うための科目群を用意している。また専攻科では、異分野対応力を養うことを目的とした横断型の実習科目を用意している。 (B-1) 創成型活動 (B-2) エンジニアリングデザイン能力 (C) 国際的対応力 グローバルな技術者として必要となる一般的な教養科目群（人文・社会科学）を低学年から用意している。また、国際的に通用するコミュニケーションツールとしての英語をすべての学年で用意し、高学年では第二外国語を用意している。 (C-1) 一般教養 (C-2) コミュニケーション能力 (D) 専門的能力 <準学士課程> すべての専門分野で必要となる数学、自然科学、工学基礎に関する科目群を主には低学年で用意し、学年が進行するに従って専門工学、工学実験・実習、技術者倫理などの科目群をくさび型に配置することで、専門的能力や実践的技術を効率的に習得する科目群を用意している。 (D-1) 理学

- (D-2) 基礎工学
- (D-3) 専門分野
- (D-4) 技術者倫理

＜専攻科課程＞

準学士課程で身につけた各専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）の専門的能力をさらに深める科目群を用意している。また、異なる分野を融合した問題解決手段により、新しいものづくりを開発するために必要な能力を身につける科目群を用意している。

- (D-1) 理学
- (D-2) 先端融合開発学域
- (D-3) 専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）

(D-4) 技術者倫理環境都市工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群：第1学年に導入教育科目を設け、第2学年以上の各学年に、自身のキャリアプランニングを育成させる実習・演習系科目を用意している。

電気情報工学科は、ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下の科目群を用意している。

電気情報工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群：主体的学習で課題を解決する能力を涵養するため、高学年に実習系科目、さらに第5学年に卒業研究を用意している。

電気情報工学科の創造的思考力を身につけるための科目群：第1学年で思考力育成に向けた基礎教育を行い、第2学年以上の各学年に、電気情報工学に関する実験を通して創造的思考力を養う。

電気情報工学科の国際的対応力を身につけるための科目群：電気情報工学科において一般教科科目として行われる外国語に加えて、専門領域の英語やコミュニケーション能力を育成する科目を用意している。

電気情報工学科の専門的能力に関する科目群：電気情報工学に関わる電気電子系、情報工学系の基礎および応用内容の科目を講義形式、演習形式、および実験・実習形式で実施することにより専門的能力を高める工夫をしている。

電気情報工学科の情報通信技術を身につけるための科目群：低学年次にプログラミングなどを含んだ情報通信技術に関する基礎科目を設け、高学年次により高度なプログラミング科目と情報通信技術に必要な専門科目群を準備している。

《成績評価及び単位認定基準》

これらの科目における単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行う。

- ・ 成績評価は、主には定期試験、提出物及び平素の学習状況等を総合して実施し、評価基準は総得点率の60%以上を合格とする。
- ・ 履修した授業科目の単位修得は、以下の成績評価6以上で認定する。

総得点率 (%)	10段階表示	標点区分
80 以上	10～8	優
70～80 未満	7	良
60～70 未満	6	可
60 未満	5～2	不可

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/>)

(概要) 本校は、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるという使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成することを目的としている。このような教育理念のもと、本校における受入方針は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものである。具体的には、次のような人を求めている。 《本科入学者に求める人材像》 1. 基礎学力が身につけている人 2. コミュニケーション能力の基礎が身につけており、グローバルな視点で活躍したい人 3. 主体的に勉学や課外活動に取り組んでいる人 4. 科学的探求心が旺盛で、ものづくりを通して人や地域社会の発展に貢献したい人 《4 年次編入学者に求める人材像》 1. 基礎学力の修得に努めており、さらに専門の知識を身につけたい人 2. 好奇心が旺盛で、常に知識を獲得し、能力の開発を目指して努力する人 3. 学んだ知識を活用し社会に貢献したい人

学部等名 電子制御工学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.gifu-nct.ac.jp/about/philosophy/)
(概要) 岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、準学士課程については、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的としている。専攻科課程については高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的としている。 電子制御工学科の教育目的は電気・電子、情報・制御、機械関連の基礎知識と考え方を身につけ、国際化する高度情報化社会の要求に応え、電子制御・情報制御技術を基礎として、創造的な技術改良・技術開発ができる能力を身につけた技術者を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/)
(概要) 本校では、下記の人材の養成を目的としている。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技術の素養を身につけて、各学科の規定する単位数を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して卒業を認定し「準学士（工学）」の称号を授与する。また、専攻科が規定する単位を修得したものに修了を認定する。 《養成すべき人材像》 「科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者」 《卒業生、修了生が修得すべき能力・技術の素養》 (A) 主体的学習能力 ① 技術者として必要となる自己管理能力、責任感、チームワーク力、体力等を持つことができる ② 未来指向型のキャリアデザイン力を身につけることができる (B) 創造的思考力 ① 新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案することができる ② 基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行することができる (C) 国際的対応力 ① 人文・社会科学の知識を活用し、グローバルな視点で社会問題や環境問題を捉えること

ができる

- ② 日本語および一つ以上の外国語を用いたコミュニケーション能力を身につけることができる

(D) 専門的能力

- ① 数学や自然科学を基礎とした専門分野の基礎知識・能力を身につけることができる
② 実験・実習で得られるデータの測定、処理および考察に関する実践的技術を身につけることができる

(E) 情報通信技術

- ① 情報リテラシーを身につけることができる
② 情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされる情報を収集・活用・発信することができる

電子制御工学科は、電子制御技術の根幹である電気・電子、制御、機械関連分野の(D)専門知識をしっかりと身につけ、技術者として新しい技術分野に挑戦できる(A)主体的学習能力を備え、電子制御システムを操作・構築できる(B)創造的思考力を持ち、グローバル化する社会の中で海外の文化を理解し外国語等を使ったコミュニケーション能力を備えた(C)国際的対応力を持ち、電子制御分野における専門的知識・技術能力を備え、コンピュータなどの情報機器を自由に駆使できる(E)情報通信技術に長けた人材を育成する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/>)

(概要)

本校では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下に示す科目群を用意している。

《全学科・専攻科共通》

(A) 主体的学習能力

主体的な学習態度を養うため、低学年において各専門学科の動機付け科目、入門的な科目を用意している。また自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップなどの素養を身につけることを目的とした各種実験・実習・演習系科目を各学年に用意している。さらに、生涯にわたり継続的に活動できる心身ともに健康な技術者を目指して保健体育、キャリア教育支援プログラムに関わる科目群や学生の主体的参加型の活動を用意している。

(A-1) 主体性の涵養

(A-2) 保健体育及び芸術

(A-3) キャリアデザイン能力

(B) 創造的思考力

各学科、専攻科において創造的な工学実験、実習、演習および卒業研究、特別研究により、課題を発見する思考力や計画から実行までを含めた課題解決能力を養うための科目群を用意している。また専攻科では、異分野対応力を養うことを目的とした横断型の実習科目を用意している。

(B-1) 創成型活動

(B-2) エンジニアリングデザイン能力

(C) 国際的対応力

グローバルな技術者として必要となる一般的な教養科目群(人文・社会科学)を低学年から用意している。また、国際的に通用するコミュニケーションツールとしての英語をすべての学年で用意し、高学年では第二外国語を用意している。

(C-1) 一般教養

(C-2) コミュニケーション能力

(D) 専門的能力

<準学士課程>

すべての専門分野で必要となる数学、自然科学、工学基礎に関する科目群を主には低学

年で用意し、学年が進行するに従って専門工学、工学実験・実習、技術者倫理などの科目群をくさび型に配置することで、専門的能力や実践的技術を効率的に習得する科目群を用意している。

- (D-1) 理学
- (D-2) 基礎工学
- (D-3) 専門分野
- (D-4) 技術者倫理

<専攻科課程>

準学士課程で身につけた各専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）の専門的能力をさらに深める科目群を用意している。また、異なる分野を融合した問題解決手段により、新しいものづくりを開発するために必要な能力を身につける科目群を用意している。

- (D-1) 理学
- (D-2) 先端融合開発学域
- (D-3) 専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）

(D-4) 技術者倫理環境都市工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群：第1学年に導入教育科目を設け、第2学年以上の各学年に、自身のキャリアプランニングを育成させる実習・演習系科目を用意している。

電子制御工学科はディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意している。

電子制御工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群：第1学年に電子制御分野に関わる導入教育科目及び実習科目を設け、第2学年から第4学年に、電子制御系の製図科目、実験・実習科目を用意している。

電子制御工学科の創造的思考力を身につけるための科目群：課題解決能力を涵養するために、第4学年に実験・実習系科目、第5学年に卒業研究を用意しています。

電子制御工学科の国際的対応力を身につけるための科目群：外国語科目を準備するとともに、電子制御工学の専門分野で英語表現を扱う専門科目群及び卒業研究などを準備している。

電子制御工学科の専門的能力に関する科目群：電気電子工学系に関わる専門科目、機械工学系に関わる専門科目、情報・制御系に関わる専門科目及び、実験系科目を用意している。

電子制御工学科の情報通信技術を身につけるための科目群：低学年では情報リテラシー等を学ぶ情報処理科目を設け、学年進行に従い情報処理言語やデータ処理を学ぶ情報処理系・情報通信系の科目を準備している。

《成績評価及び単位認定基準》

これらの科目における単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行う。

- ・ 成績評価は、主には定期試験、提出物及び平素の学習状況等を総合して実施し、評価基準は総得点率の60%以上を合格とする。
- ・ 履修した授業科目の単位修得は、以下の成績評価6以上で認定する。

総得点率 (%)	10段階表示	標点区分
80 以上	10～8	優
70～80 未満	7	良
60～70 未満	6	可
60 未満	5～2	不可

入学者の受入れに関する方針

(公表方法： https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/)
(概要) 本校は、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるという使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成することを目的としている。このような教育理念のもと、本校における受入方針は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものである。具体的には、次のような人を求めている。 《本科入学者に求める人材像》 1. 基礎学力が身についている人 2. コミュニケーション能力の基礎が身につけており、グローバルな視点で活躍したい人 3. 主体的に勉学や課外活動に取り組んでいる人 4. 科学的探求心が旺盛で、ものづくりを通して人や地域社会の発展に貢献したい人 《4 年次編入学者に求める人材像》 1. 基礎学力の修得に努めており、さらに専門の知識を身につけたい人 2. 好奇心が旺盛で、常に知識を獲得し、能力の開発を目指して努力する人 3. 学んだ知識を活用し社会に貢献したい人

学部等名 環境都市工学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.gifu-nct.ac.jp/about/philosophy/)
(概要) 岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、準学士課程については、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的としている。専攻科課程については高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的としている。 環境都市工学科の教育目的は、人類が自然災害から国土を守り快適で安全な生活を支えるための社会基盤の整備と、自然と共生・調和し環境負荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」の創造に関する基本的な知識・考え方を理解し、人類の持続的発展を支える社会基盤整備を積極的に推進できる能力を身につけている技術者を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針
(公表方法： https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/)
(概要) 本校では、下記の人材の養成を目的としている。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技術の素養を身につけて、各学科の規定する単位数を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して卒業を認定し「準学士（工学）」の称号を授与する。また、専攻科が規定する単位を修得したものに修了を認定する。 《養成すべき人材像》 「科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者」 《卒業生、修了生が修得すべき能力・技術の素養》 (A) 主体的学習能力 ① 技術者として必要となる自己管理能力、責任感、チームワーク力、体力等を持つことができる ② 未来指向型のキャリアデザイン力を身につけることができる (B) 創造的思考力 ① 新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案することができる ② 基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行することができる

(C) 国際的対応力 ① 人文・社会科学の知識を活用し、グローバルな視点で社会問題や環境問題を捉えることができる ② 日本語および一つ以上の外国語を用いたコミュニケーション能力を身につけることができる (D) 専門的能力 ① 数学や自然科学を基礎とした専門分野の基礎知識・能力を身につけることができる ② 実験・実習で得られるデータの測定、処理および考察に関する実践的技術を身につけることができる (E) 情報通信技術 ① 情報リテラシーを身につけることができる ② 情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされる情報を収集・活用・発信することができる 環境都市工学科は、人類が自然災害から国土を守り快適で安全な生活を支えるための「社会基盤の整備」と、自然と共生・調和し環境負荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」の創造に関する基本的な (D) 専門的知識・考え方を理解し、(E) 情報通信技術を駆使しながら (C) 国際的な視野で人類の持続的発展を支える社会基盤整備を (A) 主体性・多様性・協働性を持って積極的に推進できる (B) 創造的思考力を身に付けた実践的技術者を育成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/)
(概要) 本校では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下に示す科目群を用意している。 《全学科・専攻科共通》 (A) 主体的学習能力 主体的な学習態度を養うため、低学年において各専門学科の動機付け科目、入門的な科目を用意している。また自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップなどの素養を身につけることを目的とした各種実験・実習・演習系科目を各学年に用意している。さらに、生涯にわたり継続的に活動できる心身ともに健康な技術者を目指して保健体育、キャリア教育支援プログラムに関わる科目群や学生の主体的参加型の活動を用意している。 (A-1) 主体性の涵養 (A-2) 保健体育及び芸術 (A-3) キャリアデザイン能力 (B) 創造的思考力 各学科、専攻科において創造的な工学実験、実習、演習および卒業研究、特別研究により、課題を発見する思考力や計画から実行までを含めた課題解決能力を養うための科目群を用意している。また専攻科では、異分野対応力を養うことを目的とした横断型の実習科目を用意している。 (B-1) 創成型活動 (B-2) エンジニアリングデザイン能力 (C) 国際的対応力 グローバルな技術者として必要となる一般的な教養科目群 (人文・社会科学) を低学年から用意している。また、国際的に通用するコミュニケーションツールとしての英語をすべての学年で用意し、高学年では第二外国語を用意している。 (C-1) 一般教養 (C-2) コミュニケーション能力 (D) 専門的能力 <準学士課程>

すべての専門分野で必要となる数学、自然科学、工学基礎に関する科目群を主には低学年で用意し、学年が進行するに従って専門工学、工学実験・実習、技術者倫理などの科目群をくさび型に配置することで、専門的能力や実践的技術を効率的に習得する科目群を用意している。

(D-1) 理学

(D-2) 基礎工学

(D-3) 専門分野

(D-4) 技術者倫理

<専攻科課程>

準学士課程で身につけた各専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）の専門的能力をさらに深める科目群を用意している。また、異なる分野を融合した問題解決手段により、新しいものづくりを開発するために必要な能力を身につける科目群を用意している。

(D-1) 理学

(D-2) 先端融合開発学域

(D-3) 専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）

(D-4) 技術者倫理環境都市工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群：第1学年に導入教育科目を設け、第2学年以上の各学年に、自身のキャリアプランニングを育成させる実習・演習系科目を用意している。

環境都市工学科の創造的思考力を身につけるための科目群：課題解決能力を育成するための科目を主に高学年に用意している。

環境都市工学科の国際的対応力を涵養するための科目群：外国語科目のほか、文化・社会問題を捉えてコミュニケーションできる力を育成する科目を主に高学年に用意している。

環境都市工学科の専門的能力に関する科目群：5系の主要分野（構造系・地盤系・水理系・環境系・計画系）を座学と実験・実習を並行して学修する科目を用意しています。また、第5学年には分野横断型の科目、学術的な科目および実務的な科目を選択できるように用意している。

環境都市工学科の情報通信技術を身につけるための科目群：低学年で情報リテラシーを身につけるとともに情報機器を使用する基礎科目を設け、高学年に情報通信技術を適用する専門科目を用意している。

《成績評価及び単位認定基準》

これらの科目における単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行う。

- ・ 成績評価は、主には定期試験、提出物及び平素の学習状況等を総合して実施し、評価基準は総得点率の60%以上を合格とする。
- ・ 履修した授業科目の単位修得は、以下の成績評価6以上で認定する。

総得点率 (%)	10段階表示	標点区分
80 以上	10～8	優
70～80 未満	7	良
60～70 未満	6	可
60 未満	5～2	不可

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/>)

(概要) 本校は、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるという使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成することを目的としている。このような教育理念のもと、本校における受入方針は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものである。具体的には、次のような人を求めている。 《本科入学者に求める人材像》 1. 基礎学力が身についている人 2. コミュニケーション能力の基礎が身につけており、グローバルな視点で活躍したい人 3. 主体的に勉学や課外活動に取り組んでいる人 4. 科学的探求心が旺盛で、ものづくりを通して人や地域社会の発展に貢献したい人 《4 年次編入学者に求める人材像》 1. 基礎学力の修得に努めており、さらに専門の知識を身につけたい人 2. 好奇心が旺盛で、常に知識を獲得し、能力の開発を目指して努力する人 3. 学んだ知識を活用し社会に貢献したい人

学部等名 建築学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.gifu-nct.ac.jp/about/philosophy/)
(概要) 岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、準学士課程については、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的としている。専攻科課程については高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的としている。 建築学科の教育目的は、人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法、環境調整及び構造安全性に関する基礎的技術と教養を有し、それらを総合化できる技術者を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/)
(概要) 本校では、下記の人材の養成を目的としている。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技術の素養を身につけて、各学科の規定する単位数を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して卒業を認定し「準学士（工学）」の称号を授与する。また、専攻科が規定する単位を修得したものに修了を認定する。 《養成すべき人材像》 「科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者」 《卒業生、修了生が修得すべき能力・技術の素養》 (A) 主体的学習能力 ① 技術者として必要となる自己管理能力、責任感、チームワーク力、体力等を持つことができる ② 未来指向型のキャリアデザイン力を身につけることができる (B) 創造的思考力 ① 新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案することができる ② 基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行することができる (C) 国際的対応力 ① 人文・社会科学の知識を活用し、グローバルな視点で社会問題や環境問題を捉えることができる

② 日本語および一つ以上の外国語を用いたコミュニケーション能力を身につけることができる (D) 専門的能力 ① 数学や自然科学を基礎とした専門分野の基礎知識・能力を身につけることができる ② 実験・実習で得られるデータの測定、処理および考察に関する実践的技術を身につけることができる (E) 情報通信技術 ① 情報リテラシーを身につけることができる ② 情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされる情報を収集・活用・発信することができる 建築学科は、人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法、環境調整及び構造安全性に関する（D）専門的技術と（E）情報通信技術、加えて（A）主体性・多様性・協働性をもってそれらを総合化する能力、および思考力・判断力・表現力を備えた（C）国際的コミュニケーション能力と（B）創造的思考力を有する人材を育成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/）
（概要） 本校では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下に示す科目群を用意している。 《全学科・専攻科共通》 （A）主体的学習能力 主体的な学習態度を養うため、低学年において各専門学科の動機付け科目、入門的な科目を用意している。また自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップなどの素養を身につけることを目的とした各種実験・実習・演習系科目を各学年に用意している。さらに、生涯にわたり継続的に活動できる心身ともに健康な技術者を目指して保健体育、キャリア教育支援プログラムに関わる科目群や学生の主体的参加型の活動を用意している。 （A－１）主体性の涵養 （A－２）保健体育及び芸術 （A－３）キャリアデザイン能力 （B）創造的思考力 各学科、専攻科において創造的な工学実験、実習、演習および卒業研究、特別研究により、課題を発見する思考力や計画から実行までを含めた課題解決能力を養うための科目群を用意している。また専攻科では、異分野対応力を養うことを目的とした横断型の実習科目を用意している。 （B－１）創成型活動 （B－２）エンジニアリングデザイン能力 （C）国際的対応力 グローバルな技術者として必要となる一般的な教養科目群（人文・社会科学）を低学年から用意している。また、国際的に通用するコミュニケーションツールとしての英語をすべての学年で用意し、高学年では第二外国語を用意している。 （C－１）一般教養 （C－２）コミュニケーション能力 （D）専門的能力 ＜準学士課程＞ すべての専門分野で必要となる数学、自然科学、工学基礎に関する科目群を主には低学年で用意し、学年が進行するに従って専門工学、工学実験・実習、技術者倫理などの科目群をくさび型に配置することで、専門的能力や実践的技術を効率的に習得する科目群を用意している。

- (D-1) 理学
- (D-2) 基礎工学
- (D-3) 専門分野
- (D-4) 技術者倫理

<専攻科課程>

準学士課程で身につけた各専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）の専門的能力をさらに深める科目群を用意している。また、異なる分野を融合した問題解決手段により、新しいものづくりを開発するために必要な能力を身につける科目群を用意している。

- (D-1) 理学
- (D-2) 先端融合開発学域
- (D-3) 専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）

(D-4) 技術者倫理環境都市工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群：第1学年に導入教育科目を設け、第2学年以上の各学年に、自身のキャリアプランニングを育成させる実習・演習系科目を用意している。

建築学科の主体的学習能力を涵養するための科目群：第1学年に建築学を包括する導入教育科目を設け、第1学年～第2学年において基礎的技術の修得となる演習系科目を配置し、第3学年以降に実験・演習系の科目を用意している。

建築学科の創造的思考力を身につけるための科目群：課題解決能力を育成するための科目を主に高学年に用意している。

建築学科の国際的対応力を身につけるための科目群：外国語科目および英語を扱う専門基礎分野の科目のほか、グローバルな視点で建築や都市を理解するための科目を用意している。

建築学科の専門的能力に関する科目群：建築学科の3系（計画・構造・環境）に関わる基礎科目に加え、講義系科目と並行してより実践的な学修を行う実験演習系科目を用意している。また、第5学年では実務的な科目やより高度な専門技術に関わる科目を用意している。

建築学科の情報通信技術を身につけるための科目群：情報技術の基礎・リテラシーから利活用までを学習する科目を用意している。

《成績評価及び単位認定基準》

これらの科目における単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行う。

- ・ 成績評価は、主には定期試験、提出物及び平素の学習状況等を総合して実施し、評価基準は総得点率の60%以上を合格とする。
- ・ 履修した授業科目の単位修得は、以下の成績評価6以上で認定する。

総得点率 (%)	10段階表示	標点区分
80 以上	10～8	優
70～80 未満	7	良
60～70 未満	6	可
60 未満	5～2	不可

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/>)

(概要) 本校は、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるという使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成することを目的としている。このような教育理念のもと、本校における受入方針は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものである。具体的には、次のような人を求めている。 《本科入学者に求める人材像》 1. 基礎学力が身についている人 2. コミュニケーション能力の基礎が身につけており、グローバルな視点で活躍したい人 3. 主体的に勉学や課外活動に取り組んでいる人 4. 科学的探求心が旺盛で、ものづくりを通して人や地域社会の発展に貢献したい人 《4 年次編入学者に求める人材像》 1. 基礎学力の修得に努めており、さらに専門の知識を身につけたい人 2. 好奇心が旺盛で、常に知識を獲得し、能力の開発を目指して努力する人 3. 学んだ知識を活用し社会に貢献したい人

学部等名 専攻科先端融合開発専攻
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gifu-nct.ac.jp/about/philosophy/ ）
(概要) 本校は、準学士課程については、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的としている。専攻科課程については高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的としている。 先端融合開発専攻は高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/ ）
(概要) 本校では、下記の人材の養成を目的としている。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技術の素養を身につけて、各学科の規定する単位数を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して卒業を認定し「準学士（工学）」の称号を授与する。また、専攻科が規定する単位を修得したものに修了を認定する。 《養成すべき人材像》 「科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者」 《卒業生、修了生が修得すべき能力・技術の素養》 (A) 主体的学習能力 ① 技術者として必要となる自己管理能力、責任感、チームワーク力、体力等を持つことができる ② 未来指向型のキャリアデザイン力を身につけることができる (B) 創造的思考力 ① 新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案することができる ② 基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行することができる (C) 国際的対応力 ① 人文・社会科学の知識を活用し、グローバルな視点で社会問題や環境問題を捉えることができる ② 日本語および一つ以上の外国語を用いたコミュニケーション能力を身につけることができる

(D) 専門的能力

- ① 数学や自然科学を基礎とした専門分野の基礎知識・能力を身につけることができる
- ② 実験・実習で得られるデータの測定、処理および考察に関する実践的技術を身につけることができる

(E) 情報通信技術

- ① 情報リテラシーを身につけることができる
- ② 情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされる情報を収集・活用・発信することができる

先端融合開発専攻は、(D) 専門分野をさらに深めることに取り組むとともに、これと異なる分野の技術システムを理解して、機械工学、電気電子工学、情報工学、土木工学、建築学などを融合した問題解決手段により、(A) 主体性・多様性・協働性などの人間力・思考力・表現力などの(B) 創造的な思考力、柔軟な(C) 国際的対応力および(E) 情報通信技術をもって、世界の持続的な発展に貢献しうる能力を有する人材を育成する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/>)

(概要)

本校では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下に示す科目群を用意している。

《全学科・専攻科共通》

(A) 主体的学習能力

主体的な学習態度を養うため、低学年において各専門学科の動機付け科目、入門的な科目を用意している。また自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップなどの素養を身につけることを目的とした各種実験・実習・演習系科目を各学年に用意している。さらに、生涯にわたり継続的に活動できる心身ともに健康な技術者を目指して保健体育、キャリア教育支援プログラムに関わる科目群や学生の主体的参加型の活動を用意している。

(A-1) 主体性の涵養

(A-2) 保健体育及び芸術

(A-3) キャリアデザイン能力

(B) 創造的思考力

各学科、専攻科において創造的な工学実験、実習、演習および卒業研究、特別研究により、課題を発見する思考力や計画から実行までを含めた課題解決能力を養うための科目群を用意している。また専攻科では、異分野対応力を養うことを目的とした横断型の実習科目を用意している。

(B-1) 創成型活動

(B-2) エンジニアリングデザイン能力

(C) 国際的対応力

グローバルな技術者として必要となる一般的な教養科目群(人文・社会科学)を低学年から用意している。また、国際的に通用するコミュニケーションツールとしての英語をすべての学年で用意し、高学年では第二外国語を用意している。

(C-1) 一般教養

(C-2) コミュニケーション能力

(D) 専門的能力

<準学士課程>

すべての専門分野で必要となる数学、自然科学、工学基礎に関する科目群を主には低学年で用意し、学年が進行するに従って専門工学、工学実験・実習、技術者倫理などの科目群をくさび型に配置することで、専門的能力や実践的技術を効率的に習得する科目群を用意している。

(D-1) 理学

(D-2) 基礎工学

(D-3) 専門分野

(D-4) 技術者倫理

<専攻科課程>

準学士課程で身につけた各専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）の専門的能力をさらに深める科目群を用意している。また、異なる分野を融合した問題解決手段により、新しいものづくりを開発するために必要な能力を身につける科目群を用意している。

(D-1) 理学

(D-2) 先端融合開発学域

(D-3) 専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）

(D-4) 技術者倫理環境都市工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群：第1学年に導入教育科目を設け、第2学年以上の各学年に、自身のキャリアプランニングを育成させる実習・演習系科目を用意している。

先端融合開発専攻の主体的学習能力を涵養するための科目群：1年次から実践的な実験実習科目を設け、2年次には社会問題解決能力を育む実験実習科目と教育課程の総まとめとなる特別研究を用意している。

先端融合開発専攻の創造的思考力を身につけるための科目群：創造的思考力を涵養するために実践的な実験実習科目、および社会問題解決能力を育む実験実習科目と教育課程の総まとめとなる特別研究を用意している。

先端融合開発専攻の国際的対応力を身につけるための科目群：国際的対応力を涵養するために、一般教養を育む社会倫理科目とコミュニケーション能力を育む英語科目を用意している。

先端融合開発専攻の専門的能力に関する科目群：機械工学、電気電子工学、情報工学、土木工学、および建築学を基礎とし、各分野の融合を含めた科目群に加え、科学・数学等の理学系科目と技術者倫理科目を用意している。

先端融合開発専攻の情報通信技術を身につけるための科目群：情報通信技術を涵養するために、情報機器の活用能力を育む情報工学系の講義科目と実験実習科目を用意している。

《成績評価及び単位認定基準》

これらの科目における単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行う。

- ・ 成績評価は、主には定期試験、提出物及び平素の学習状況等を総合して実施し、評価基準は総得点率の60%以上を合格とする。
- ・ 履修した授業科目の単位修得は、以下の成績評価6以上で認定する。

総得点率 (%)	10段階表示	標点区分
80 以上	10～8	優
70～80 未満	7	良
60～70 未満	6	可
60 未満	5～2	不可

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.gifu-nct.ac.jp/about/3policy/>)

先端融合開発専攻では、高等専門学校基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的としている。このような教育理念のもと、本校における受入方針は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものである。具体的には、次のような人を求めている。

1. 国際的視野を持ち、先端技術の融合により世界の持続的成長に貢献するものづくりの技術的能力の獲得を目指している人
2. 産業界の要請に対して、創造的手法により革新的な価値創生を実現できる融合的な開発的能力の習得を目指している人
3. 高専本科などにおいて、基盤となる専門科目を習得したのちに、さらに融合分野の学修や研究に強い意欲を持つ人

公表方法：<https://www.gifu-nct.ac.jp/about/organization/>

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6 人	—					6 人
機械工学科	—	5 人	1 人	2 人	1 人	人	9 人
電気情報工学科	—	5 人	3 人	1 人	1 人	人	10 人
電子制御工学科	—	3 人	2 人	2 人	人	人	7 人
環境都市工学科	—	2 人	5 人	1 人	人	人	8 人
建築学科	—	3 人	3 人	1 人	1 人	人	8 人
一般科目	—	7 人	4 人	4 人	3 人	人	18 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		人					人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法： https://www.gifu-nct.ac.jp/research/teachers/ https://research.kosen-k.go.jp/						
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40 人	42 人	105%	200 人	213 人	106.5%	人	0 人
電気情報工学科	40 人	42 人	105%	200 人	213 人	106.5%	人	0 人
電子制御工学科	40 人	42 人	105%	200 人	211 人	105.5%	人	0 人
環境都市工学科	40 人	42 人	105%	200 人	204 人	102%	人	0 人
建築学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	213 人	106.5%	人	0 人
合計	200 人	209 人	104.5%	1,000 人	1,054 人	105.4%	人	0 人
専攻科	20 人	21 人	105%	40 人	55 人	137.5%	人	0 人
合計	220 人	230 人	104.5%	1,040 人	1,109 人	106.6%	人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	38 人 (100%)	14 人 (36.8%)	24 人 (63.2%)	0 人 (0%)
電気情報工学科	40 人 (100%)	20 人 (50%)	18 人 (45%)	2 人 (5%)
電子制御工学科	37 人 (100%)	19 人 (51.4%)	18 人 (48.6%)	0 人 (0%)
環境都市工学科	44 人 (100%)	12 人 (27.3%)	32 人 (72.7%)	0 人 (0%)
建築学科	37 人 (100%)	9 人 (24.3%)	28 人 (75.7%)	0 人 (0%)
合計	196 人 (100%)	74 人 (37.8%)	120 人 (61.2%)	2 人 (1%)
専攻科	34 人 (100%)	8 人 (23.5%)	25 人 (73.5%)	1 人 (3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 各学科・専攻科会議が中心となり、年度毎に各学科・専攻の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）に基づいて教育課程表（授業科目）の見直しが行われている。授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画については、年度末に学科単位でシラバスの内容確認を行うことで、授業担当者へのみの意向に左右されることなく、各学科において内容が適切に整備され承認されている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 【本科（学科）】 「試験、成績評価、進級及び卒業に関する内規」には、進級、及び卒業に関する要件が定められている。公開 web シラバスに基づき、本校における 10 段階の成績評価（優：80 以上～100，良：70～80 未満，可：60 以上～70 未満，不可：60 未満）を公表している。 所定の課程を履修し、167 単位以上（一般科目 81 単位以上，専門科目 86 単位以上）修得し，特別活動に合格した者は卒業を認定する。また，第 5 学年において履修すべき単位を修得していない者は卒業を認定しない。その場合は，卒業研究の単位も認定しないものとし，次年度に卒業研究を再履修の上，修得しなければならない。卒業認定に係わる未修得授業科目の成績向上は，課題指導及び単位追加認定試験を行い，6 単位以内（卒業研究を除く）で認定している。 年度末には，学生の卒業判定を審議事項とした主管会議，及び運営会議が開催される。 【専攻科】 「専攻科学生の試験，成績評価及び修了認定に関する内規」には，修了に関する要件が定められている。所定の課程を履修し，62 単位以上（一般科目 8 単位以上，専門科目 54 単位以上）修得した者は修了を認定する。また，2 年次において履修すべき単位を修得していない者は修了を認定しない。その場合は，特別研究 2 の単位も認定しないものとし，次年度に特別研究 2 を再履修の上，修得しなければならない。 年度末には，学生の卒業判定を審議事項とした主管会議，及び運営会議が開催される。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	1 6 7 単位	有・無	単位
	電気情報工学科	1 6 7 単位	有・無	単位
	電子制御工学科	1 6 7 単位	有・無	単位

	環境都市工学科	167単位	有・無	単位
	建築学科	167単位	有・無	単位
専攻科	先端融合開発専攻	62単位	有・無	
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.gifu-nct.ac.jp/about/disclosure/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械工学科	234,600円	84,600円	9,950～11,150円	
	電気情報工学科	234,600円	84,600円	9,950～11,150円	
	電子制御工学科	234,600円	84,600円	9,950～11,150円	
	環境都市工学科	234,600円	84,600円	9,950～11,150円	
	建築学科	234,600円	84,600円	9,950～11,150円	
専攻科	先端融合開発専攻	234,600円	84,600円	9,950～11,150円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組	
（概要） 学習を進める上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制・新入生向けの研修会を定期的に開催し、学習方法のみならず多様な案内をしている。 ・学生の学習上の疑問に対応するため、オフィスアワーを設置し、有効に利用されている。 ・学生の意見を吸い上げるシステムとして意見箱を設置し、修学上の問題も含め、多様な問題に対処するシステムを取っている。学習を進める上での情報提供システムを構築、適切に実施している。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制として、オフィスアワーが機能している。 ・自主的学習に供するスペース、利用時間は、十分に確保されている。コミュニケーションスペースについては、平成22年度に福利厚生施設1階の談話コーナーの充実が図られ、学生の要望に答えながら整備している。 ・学習支援に関する学生のニーズを把握し、資格試験や検定試験の受講により、卒業要件とは別の単位が認定されるシステムを構築している。また、学内で検定試験を実施するなど、その受講支援も十分である。また、外国留学のための支援体制として、学生の留学に対する申し合わせがあり、機能している。 ・高等学校から本校の準学士課程第4学年への編入学予定学生について、編入学前の半年間に事前教育を実施するシステムがある。事前教育開始に先立って、編入学予定者にオリエンテーションを実施している。半年間の通信教育中心の事前教育を実施している。特別な	

支援が必要と考えられる編入予定学生への学習支援体制が整備されており，必要に応じて学習支援が行われている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 学生が進路指導に直接，携わるのは第5学年の学級担任及び専攻科長・専攻科長補佐である。これに先立って，学生係員が次年度の第5学年学級担任等に対して就職手続きの説明を行う機会を設けている。また，学年の終期から就職活動に入る第4学年及び専攻科1年次を対象として，例年，採用関係の支援業者の担当者を講師に招き，就職講演会を実施している。また，就職志望の学生に定常的に情報サービスをする仕組みとして，キャリア支援室に就職案内コーナーを設け，学生が求人票等の採用情報を自由に閲覧することが可能である。 進学志望の学生を対象として，例年12月に進学ガイダンスを実施している。このガイダンスでは，進学先の大学・大学院等の教員が招かれ，進学後の就学状況等についての説明がなされる。また，併せて本校の第5学年の進学確定者による合格体験談を聴く機会にもなっている。例年4月には，第5学年向けの進学ガイダンスを実施。ここでは願書提出に関わる具体的な事務手続きの解説も行っている。 また，進学志望の学生に対する定常的な情報提供の場として，大学案内コーナーが設けられている。 このように，就職や進学等の進路指導を行う体制を整備し，学生に適切な指導がなされている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 本校は学生相談室があり，学生相談室にはカウンセラーが常駐し，学生生活の悩みの相談にのっている。教職員スタッフもあり，専門科目や学科に関する悩みの相談にのっている。その他，キャリア支援室があり，本校OB教員が進路等の相談にのっている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.gifu-nct.ac.jp/about/disclosure/ 備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。
--